



「iGrafx のおかげで内部統制文書の整備  
においても 3～4 倍の作業効率を得られ  
ています。内部統制を職員へ浸透させる  
には iGrafx PLATFORM の利用が必須  
でした」



ネットワークでつなぐ確かな信頼・大きな絆  
株式会社 青森県農協電算センター

## 株式会社青森県農協電算センター

- 本社所在地 : 〒030-0847 青森市東大野二丁目1番地15 農協会館3階
- 設立 : 1974年1月
- 従業員数 : 26名(嘱託職員含む)
- 事業内容 : 青森県内JA系統の電子計算機等による処理の受託、不動産賃貸業務、  
上述に付随する一切の業務

株式会社青森県農協電算センターは、1974年1月に前身である青森県農協ビル株式会社が設立され、1979年度に現在の会社名へ改称し、同年から県内の信用事業システムの受託業務を請負い、現在は農林中央金庫の信用事業にかかるJASTEMシステム補完等業務と管理経済事業関係にかかる青森県JA総合情報システムの受託業務に携わっています。今回、内部統制の整備にあたり iGrafx を導入した経緯と効果について、株式会社青森県農協電算センター 管理経済部 部長代理 小館 一浩 氏に詳しく伺いました。

## 農林中央金庫およびJA青森中央会と連携して円滑な運営の取り組み

### ●御社の会社概要についてお聞かせいただけますか。

当社は県内の総合10JA及び各連合会を株主として、県下JA事業の電算業務を請負う会社です。主な電算業務は2つあり、1つ目は農林中央金庫が提供している国内有数の大規模リテールバンキングシステム「JASTEMシステム」(信用事業)の県域サポート業務及び「JASTEMシステム」の信用事業補完システムです。2点目は県下JAグループの管理経済事業にかかる受託システム「青森県JA総合情報システム」の管理・運営業務となります。当社に限らず、全国の県域電算センターはこうした信用事業と管理経済事業を主体に携わっています。

### ●小舘 様の経歴も伺ってもよろしいでしょうか。

私はもともとJA青森中央会に所属していました。2019年10月から2021年3月まではJA青森中央会所属のまま、青森県農協電算センターに出向勤務。60歳の定年退職を機に、2021年4月1日から嘱託職員として青森県農協電算センターの管理経済部に所属しています。なお、JA青森中央会所属時は情報システム課に勤務しており、iGrafxの導入および運用・管理にも携わらせていただきました。

## 内部統制の整備がきっかけでiGrafxを導入

### ●まず、これまでのiGrafxの導入状況をお聞かせいただけますか。

最初にiGrafx SOX+を導入したのが2008年です。その後、ライセンス更新はせず、あらためて2016年にiGrafx SOX+を再導入しました。なお、マイナンバー業務要件や作業手順を標準化したテンプレートがセットになったパッケージも導入しています。詳しくは以下の表の通りです。

2008 年	iGrafx SOX+	35 ライセンス
2015 年	iGrafx BPR+ マイナンバーテンプレート	1 ライセンス
2016 年	iGrafx SOX+ iGrafx PLATFORM	6 ライセンス 100 ライセンス (各種ライセンスの合計)
2018 年	iGrafx SOX+	6 ライセンス
2021 年 現在	iGrafx SOX+ iGrafx PLATFORM	計 12 ライセンス 計 100 ライセンス (各種ライセンスの合計)

## JA全国指導機関から内部統制整備の通達

### ●iGrafxの導入背景をお聞かせいただけますか。

2008年に「信用事業を展開するうえで内部統制が必須」ということで、JAの全国指導機関であるJA全中から全国の県中央会に対し、内部統制整備の指導があったことがきっかけです。その際、JA全中から内部統制を整備するための専用ツールとして指定されたのがiGrafx SOX+でした。ところがいくつかの課題に直面し、内部統制の整備が進まず、内部統制整備の必要性についてトーンダウンしたことから、内部統制の整備はストップした経過がありました。

### ●内部統制整備の課題とは何ですか。

iGrafx SOX+に問題があったわけではありません。そもそも使いこなすレベルまで達していませんでした。具体的には、以下の2つが主な課題でした。

#### <膨大な時間とリソースがかかった>

JA全中から内部統制を整備するためのテンプレートが配布されていたため、それを参考にアウトラインは把握できました。そして、フローチャートもある程度作成できましたが、各業務ごとにリスクやコントロールを設定しなければならず、当時はiGrafx SOX+にも不慣れだったことも重なり、時間がかかるばかりでした。

#### <協力体制を構築できない>

主力販売品であるりんご、やさい、米穀、畜産といった販売関連、肥料・農薬、生産資材、燃料・生活用品といった購買関連など、内部統制整備のためにまとめなければならない項目は多岐に渡ります。我々だけでも一部は作成できましたが、より具体的な部分はJAとの協力体制が欠かせません。しかし、JAも日々業務に忙殺されていますから、すぐに協力し合うことは困難でした。我々も内部統制の必要性を明確に説明することができなかったため、内部統制の整備を推進させられませんでした。

## 公認会計士による監査が義務付けられる

### ●2016年にもう一度内部統制にチャレンジされた理由をお聞かせいただけますか。

JA全中から再度、内部統制整備の指導があったためです。今回はiGrafx SOX+が必須という縛りがない代わりに、2016年4月1日に施行された改正農協法によって、2019年から公認会計士による監査(会計監査人監査)が義務付けられました。つまり、今回は是が非でも内部統制を整備しなければなら



ない状況になったのです。そこで、内部統制を整備する方法をあらためて思案しました。そして、JA全中のテンプレート（Word、Excel）を利用するか、iGrafx SOX+のような専用ツールを利用するか2択から選択することになりました。

## 内部統制を整備するには 専用ツールが必須

### ●再度iGrafxを導入した理由をお聞かせいただけますか。

以下の2つがiGrafxを導入した理由になります。

#### ＜大手監査法人からのアドバイス＞

監査が義務付けられるということで、専門家のアドバイスや意見を聞きたいと考え、大手監査法人を訪れました。県域10JAを対象に経済事業を主体とした内部統制の大手監査法人による点検を実施するにあたり、大手監査法人からは「もし当法人で内部統制を点検するとしたら、フローチャート、RCM、業務記述書が整合し全部揃っていないと（時間的な問題もあり）チェックできません」との回答でした。そのため、今後も内部統制の監査が続いていくとすれば、やはり誰が見ても分かりやすい形でまとめていくのが賢明だろうという結論に至りました。

#### ＜iGrafxでマイナンバーを運用・管理できた成功体験＞

実は、2016年1月施行のマイナンバーについて、どうやって運用・管理していくか検討を重ねていたとき、インターネットでマイナンバー業務要件や作業手順を標準化したテンプレートがパッケージになったiGrafxを偶然見つけました。そこであらためてサン・プランニング・システムズに連絡をさせていただき、導入しました。

パッケージはマイナンバーを運用・管理するうえでの必要な機能がすべて揃っており、とても満足できるものでした。おかげさまで現在、マイナンバーをスムーズに運用・管理することができています。こうした成功体験がありましたから、もう一度iGrafxに向き合ってチャレンジすれば内部統制を整備できるのではと考え、再度iGrafxを導入した次第です。

## 標準フォーマットの利用と ペーパーレス化を推進

### ●再度iGrafxを導入された際は 見事に成功されていますが、 ポイントになった点はございますか。

最初の内部統制整備とマイナンバーで、iGrafxを使うことに慣れていました。さらに、今考えると以下の2つが大きなポイントだったと思います。

#### ＜標準フォーマットをベースにした会話＞

まず、各JAとの協力体制を築いていくためには共通のツールが必要だと考えました。そこで、JA青森中央会が作成した標準フォーマットをベースにチェックする方法を推進するためにサン・プランニング・システムズに協力を仰ぎました。こちらの事情を理解していただき、マクロボタンを押すだけでRCMからJA青森中央会の標準フォーマットに自動変換する機能をカスタマイズで付けてもらいました。これにより、実際に何をやればいいのか明確に分かるものができました。監査を踏まえ、お互いが本気で取り組まなければならないことも大きな要因でしたが、我々としてはJAに標準フォーマットを確認してもらい、異なる部分については我々の方で修正するというやり方で進めたことも、内部統制の整備を大きく前進させられた要因だと考えています。

#### JA青森中央会の標準フォーマットへ変換したRCM

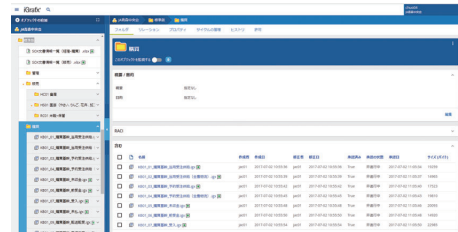
#### ＜iGrafx PLATFORM導入によるペーパーレス化＞

作成した内部統制文書をどうやって職員に浸透させるかが問題でした。実は以前、作成したフローチャートを印刷して紙で配布していましたが、内容が日々更新されていくために、結局どれが最新の情報が分からなくなることがありました。作成する我々も管理が煩雑になるため、どうやって一元管理するか思案していました。

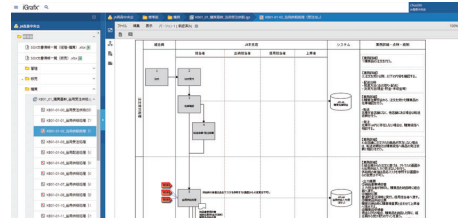
そんなとき、サン・プランニング・システムズからiGrafx PLATFORMについて提案を受けました。文書を準備する側はiGrafx PLATFORMにアクセスしていつでも修正が可能。

また、職員はiGrafx PLATFORMにWEBブラウザでアクセスして参照することができます。もちろん、アップされているのは常に最新のデータです。今後、内部統制を整備し浸透させていくためにはiGrafx PLATFORMがキーになると考え、すぐに導入しました。

#### iGrafx PLATFORM 文書格納イメージ



#### iGrafx PLATFORM フローチャート公開イメージ



## iGrafxによって公認会計士監査を乗り切る

### ●iGrafx導入による評価をお聞かせいただけますか。

iGrafxなくしては内部統制の整備をクリアできなかったと思っています。あらためて導入して良かったと考えています。

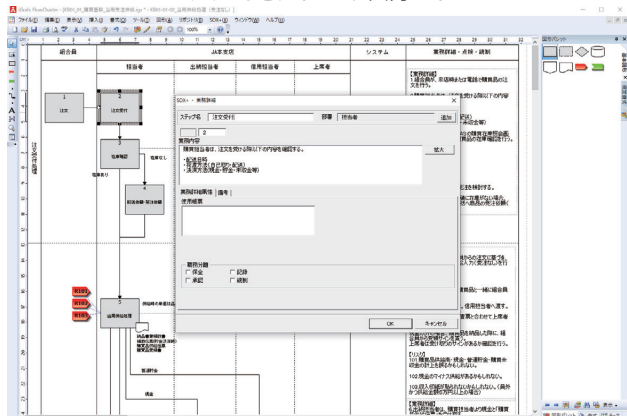
#### <3～4倍の作業効率が見られる>

WordやExcelで作成する場合、ゼロからつくる分には問題ありません。しかし、新たな項目の追加や修正を入れようとするとズレが発生するため、整合性のチェックに膨大な時間がかかります。前述したように内部統制に関する業務プロセスは変化していくものですから、修正は日常茶飯事。その点、iGrafx SOX+はフローチャート、RCM、業務記述書のどれかひとつに修正が入れば、すぐにそれぞれに反映されます。整合性をチェックしながら修正する手間がありません。いつでもどこにでも項目を挿入し、また簡単に修正もできるiGrafx SOX+の使い勝手は本当に素晴らしいと思います。

そういう意味では、iGrafx SOX+は素人でも使いこなすことができます。実際、一般職員向けに研修会を実施し、内部統制文書の整備に関わる人材を増やす取り組みも行っています。

作業効率という点では、あくまでも私自身の体感ですが、WordやExcelと比べると3～4倍は違います。それぐらい、スムーズに作成できるのがiGrafx SOX+だと思っています。

フローチャートとダイアログ入力のイメージ



RCM(リスクコントロールマトリクス)のサンプルイメージ

#### <大手監査法人から高い評価を受ける>

iGrafx SOX+で作成した内部統制の点検をしていただいた大手監査法人に整備状況をチェックしていただいたときに、「公認会計士から見る視点でまとまっており、内部統制の整備としては問題ない。」という言葉をいただきました。この評価は我々にとって大きな自信になりました。

## 業務マニュアルもiGrafxで作成・管理していきたい

### ●今後の展開をお聞かせいただけますか。

業務マニュアルをiGrafxで作成し管理していきたいと考えています。業務マニュアルも内部統制と一緒に随時改訂していく必要がありますが、iGrafxで業務マニュアルの作成や管理をしていけば、紙の煩わしさがなくなり業務の更新も簡単だと思います。もちろん、最新のマニュアルはiGrafx PLATFORMにアップされていますから、職員間で業務に対する認識を統一化することもできます。できるだけ早急に進められればと考えています。

## サン・プランニング・システムズの研修に期待

### ●最後に、サン・プランニング・システムズに対する期待をお聞かせいただけますか。

現在の内部統制に点数を付けるとしたら60点ほどです。100点を目指し、まだまだ取り組んでいかなければならない課題が数多くあります。例えば、少子高齢化も大きな課題です。若い職員が減少し、なおかつ高齢職員の定年退職が相次いでいるなかで支店数が減っています。こうした状況で若い職員にノウハウを伝授するために、より業務の効率化や業務改善、生産性の向上が求められていきます。そうなれば、今後ますますiGrafxに頼ることが多くなり、デジタル化も進んでいくと思います。

遠い将来ではなく間近に迫った課題ですから、まずは我々のリテラシー向上が急務です。今後もサン・プランニング・システムズの研修にも積極的に参加したいと思っています。引き続き、よろしくお願いします。

お忙しい中、貴重なお話をお聞かせいただき  
ありがとうございました。

取材日時 2021年7月  
株式会社青森県農協電算センター  
<http://www.ja-aomoricc.co.jp/>

※記載の担当部署は、取材時の組織名です。